



# 国際ロータリー第2700地区 行橋みやこロータリークラブ

「取り組もう 基盤強化と超我の奉仕」  
2021-2022年度 第2700地区  
賞 正義ガバナー

“出会い 大切に！”  
2021-2022年度 行橋みやこロータリークラブ  
会長 内田克彦

本日のプログラム	5月は青少年奉仕月間	
<p>◆開会「点鐘」 ◆ロータリーソング「我らの生業」 ◆お客様・ビジターご紹介 ◆会長挨拶 ◆幹事報告・委員会報告 ◆会員増強委員会 ◆ニコニコBOX ◆閉会「点鐘」</p>	<p style="text-align: center;"><b>【浅倉隆浩広報公共イメージ委員長活動方針】</b></p> <p>広報公共イメージ委員会と名前を一新したことを受け、当クラブで行っている様々な奉仕活動を一般市民をはじめ多くの方によりわかりやすく発信し、ロータリー活動を理解していただき協力を頂けるようにロータリークラブの良いイメージが出来るような広報活動を行います。</p>	
例会予定	出席報告	5月のお誕生日
<p>◆5月25日(水) 広報・公共イメージ委員会 ◆6月1日(水) プログラム委員会 ◆6月8日(水) 青少年・RA委員会 ◆6月15日(水) クラブ協議会委員会 ◆6月22日(水) 最終夜間例会 ◆6月29日(水) 休会</p>	<p>会員数:51名 メークアップ:3名 欠席者:10名 出席率80.39%</p> <p>お客様:永野義憲様 秦江さん(米山奨学生)</p>	<p>西畑浩之R(12日)・藤原妃呂R(13日) 友住優介R(18日)・内田克彦R(21日) 渡辺謙介R(23日)</p> <p>工藤みえ子様(8日)・石田志緒里様(13日) 浅倉直美様(15日)・村上めぐみ様(24日)</p>

### 【会長の時間】



皆様、こんにちは。皆様は毎朝のNHK連続テレビ小説の【ちむどんどん】をご覧になられておられますか？この番組は沖縄の本土復帰50周年を記念して沖縄本島北部の「やんばる」を舞台にして作られたものです。沖縄料理に夢を懸けるヒロインと強い絆で結ばれた4人の兄弟の家族とふるさとの物語です。ちむどんどんのちむとは「肝」という言葉がなまったもので、肝とは心情や情を意味する言葉であるので、それがどんどんするとは、心臓がバクバクするという意味となり、すなわち、胸がわくわくするという意味となります。使い方としては、「クライマックスが近づくにつれ、ちむどんどんしてきた」とか、「あなたの演技、最高にちむどんどんした!」とか、「あなたのそばにいとちむどんどんする」などという使い方になります。

同じような言葉に、「ちむわさわさ」気持ちが落ち着かない、ぞくぞくする  
 「ちむかなさん」かなさん＝可愛い、いとおしいので、心からいとおしい  
 「ちむぐりさん」ぐりさん＝苦しいなので、心が苦しい、気の毒、悲しい  
 「ちむじゅらさん」じゅらさん＝美らさんなので、心が清らかで美しい  
 「ちむぐる」くる＝心なので、思いやりのある助け合いの精神  
 「ちむむちむん」温かい思いやりのある人などがあります。なかなか面白いですね。ところで、付図をご覧ください。これは、沖縄復帰50周年を記念したシンボルマークです。沖縄県は本年5月15日に本土復帰50周年を迎えます。一般公募で選ばれたこの作品は誰もが沖縄をイメージする花笠をモチーフにデザインしたシンボルマークで、数字の5は沖縄の風と波、そして沖縄の歴史の流れ

- 創立・・・1984年4月3日
- 会長……………内田克彦
- 例会日…水曜日(12:30～13:30)
- 副会長……………田淵哲朗
- 例会場…みやこホテル Tel. 0930-23-1800 行橋市宮市町9-18
- 幹事……………村上哲二
- 事務局…〒824-0005 行橋市中央1丁目9-50(行橋商工会議所 別館1階)
- 会報雑誌委員長…岡崎慎一
- TEL0930-25-0655 FAX0930-25-5700 E-mail: info@ymrotary.club
- URL: https://ym-rotary.club

参考になれば 内田克彦会長

先日、世界の人口が爆発するので食糧危機が来るという話を致しましたが、今日は農業の話をしていただこうと思います。日本の農業は農業従事者の平均年齢が1995年には59.6歳だったのが2015年には67歳となっています。高齢化による人手不足、荒廃した農地の増加、中山間地農業の衰退、気候変動など、問題山積みの状態です。実は世界各国も似たような状況なのですが、こうした問題を解決するため考え出されたのが、スマート農業、Agriculture Technology、アグリテック、アグテックなどと呼ばれる新しい農業です。

- これは、ロボット技術やICT（情報通信技術）等の先端技術を活用して超省力化や高品質生産を可能にする新しい農業のことです。
- スマート農業の主な取り組みは具体的には、
- 1) ロボット技術
    - 農機ロボットの自動操縦技術 GPS付無人トラクターなど
    - 収穫ロボット 収穫した作物の選果や箱詰めロボット
    - ドローンによる農薬散布、圃場観察、種まき等
  - 2) ビッグデータ
    - ビッグデータを解析して、効率的に栽培を管理する方法を揭示
    - 炭酸ガスの量を観察して収穫、出荷時期を予測
    - 気象データの解析から栽培に関するリスクを予想し確実に成熟した作物の収穫につなげる
  - 3) 人工知能 (AI)
    - 新規就農者向けの技術やノウハウをシステム化して継承し人材不足を解消
    - AIで土壌を管理して灌水、施肥を行なう
    - ドローンの画像から生育状況を判断し、病害虫の場所をピンポイントで検知し農薬を散布すれば農薬の使用量を劇的に減らせる
  - 4) IoT
    - IoTにより市場の動向や消費者のニーズを把握してニーズに合った産物を生産

繁忙期に適材適所の人材派遣も可能になるなど色々なことが可能となります。

スマート農業のメリットとしては、

- 1) 省力化による圃場の拡大、収穫量アップ
- 2) 肉体への負担の軽減
- 3) 農業ノウハウのデータ化と活用
- 4) 持続可能な社会を実現するための有機栽培、減農薬栽培の推進などがあげられます。

実際の現場では例えば植物工場。2011年の東北大震災の後、塩害でまともな農業が出来なくなった宮城

## 四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1、**真実**かどうか
- 2、**みんなに公平**か
- 3、**好意と友情**を深めるか
- 4、**みんなのためになる**かどうか

県多賀城市に作られた植物工場では、いまや1日1万株のレタスが生産されています。空調管理された建物の中で24時間LED照明の下でレタスの水耕栽培をして、害虫に対する農薬は必要なくITで給水や肥料の管理をして、天候に左右されることなく一年中収穫できるそうです。既にレタスに関してはかなりのノウハウが蓄積されています。

アメリカでは、広い農地を自動運転トラクターが走り回り、ドローンを飛ばして生産状況把握、害虫や病気の検出をしてピンポイントで農薬散布をしており、既に3分の1の農家がドローンを利用しています。また次々と都市のビル内に植物工場が建設されています。オランダでは1980年から国を挙げて完全制御ビニールハウスに取り組み、8割の農家で肥料や給水をスマートフォンやタブレットで制御しており、驚くなかれ、いまや世界第二位の農業輸出国となっています。

現在のスマート農業のデメリットとしては、

- 1) イニシャルコストが割高
- 2) 個々の機器のデータ形式のバラツキがありソフトウェアの標準化が必要
- 3) スマート農業実施者の新たな育成が必要
- 4) 農家への新たな作業負担、金銭的、時間的、技術的負担
- 5) 育てた野菜の食味（露地栽培の方が美味しいという現実）

などがあげられます。これらのデメリットに対し、スマート農業アライアンスという取り組みがなされています。具体的には、ITベンチャー企業が参入し、導入コストがかからないでドローンやICT機器を導入することが可能となり、収穫したものはスマートアグリフーズとして全量を買取ってくれるというシステムが始まっています。実際に減農薬や無農薬のスマート黒枝豆やスマート米などの販売がされています。今後、NTTドコモ、ソフトバンク、クボタ、ヤンマー、大学発のベンチャー企業、地方の銀行など多くの企業が農業分野に参戦してくることが予想されています。

これまで農業の行く末を陰ながら心配しておりましたが、ピンチはチャンス、スマート農業による農業の復権が楽しみとなりました。

ニコニコBOX

5月11日の合計17,500円

累計645,500円

**近隣R・Cへのメークアップのご案内**

月曜日	小倉中央R.C	「リーガロイヤルホテル小倉」
火曜日	行橋R.C	「みやこホテル」
火曜日	小倉南R.C	「リーガロイヤルホテル小倉」
水曜日	田川R.C	「ザ・プリティッシュヒルズ」
水曜日	小倉東R.C	「ステーションホテル小倉」
木曜日	豊前R.C	「ニューいずみ」
金曜日	苅田R.C	「パンジープラザ」
金曜日	小倉R.C	「リーガロイヤルホテル小倉」
金曜日	豊前西R.C	「築上町リサイクルプラザ」



をイメージ、カラーリングも直感的に沖縄を感じられる配色とし、「沖縄復帰50周年」のロゴをオリジナルで設計することで、より印象的にアピールするという事です。他にも沖縄復帰50周年記念硬貨や記念切手も出されるそうですが、なんか、コロナやウクライナのせいで今一つ盛り上がりませんが、これからちむどんどんしていけるといいですね。皆さん、今日は「ちむどんどん」という言葉は胸がワクワクするという意味だということがわかりましたね。みんなでは是非とも「ちむどんどんするロータリーの例会」を作り上げ、楽しもうではありませんか！

【幹事報告】

- ①例会終了後に理事会を行います。
- ②6月から例会場が2階になります。



【委員会報告】

米山記念奨学委員会 竹本委員長



秦江さんに初めての米山奨学金が支給されました。5、6月分の米山奨学金を頂けて嬉しいです。大事に使わせて頂きます。

次年度ロータリー財団・米山記念奨学委員会

ロータリー財団委員会 山本委員長  
米山記念奨学委員会 上野委員長

例会終了後に小委員会を合同で、この場で行いますので出席宜しくお願い致します。



次年度親睦委員会 安永委員長

例会終了後、例会場で小委員会を行いますので委員の方は出席お願い致します。



次年度幹事 原田和博R

本日次年度の役員・理事・委員長の名刺をBOXの中に入れております。間違いのないか確認宜しくお願い致します。

小委員会・炉辺が終わった委員会

は早めに次年度の活動方針をメールで送って頂きます様、宜しくお願い致します。



会長エレクト 山田千恵R

5月6日にホテルオータニ博多で行われた第7回日台ロータリー親善会議に、藤井賢治ロータリアンと一緒に参加してきました。残念ながら台湾ロータリーからの参加者はコロナウイルスの影響でZoomでの参加でしたが、全国から135名（2700地区から約100名）のロータリアンの方々が集まって開催されました。これまで日本全国のロータリアンの方々が集まる親善会議の参加は初めてなので、規模の大きい大会だと実感しました。2019年からこの事業に実行委員として関わり、そして今回、参加した皆様と親睦できたことは私にとっても貴重な経験となりました。特に大島総裁が退任されて次の新しい吉田雅敏総裁にバトンが渡された時、感慨深く見守らせていただきました。次回の大会は恐らく台湾で開催されるかと思えます、ロータリーの意義深さを体験し是非とも台湾を訪れたいと思いました。



親睦委員会 二十二委員長

本日、親睦旅行(コトコト列車)出席者の皆様に最終案内のご案内をしております。出席者は18名です。ご案内にも書いておりますが、旅行代金につきましては6月の会費と一緒に徴収致します。又、何かありましたら二十二までご連絡をお願い致します。宜しくお願い致します。



【いい人誕生日】



【本日のプログラム】

会報雑誌委員会

委員長 岡崎慎一R



本日、卓話に来て頂きました永野さんは高校からの友人で、早いもので26年の付き合いになりました。これだけの付き合いなのでお互いの、良いところも悪いところも分かっている関係だと思っています。

仕事に対する姿勢であったり考え方が素晴らしく、尊敬する友人の一人です。この度は株式会社福岡九州クボタの重役として卓話をお願い致しました。早速では御座いますが宜しくお願い致します。

株式会社福岡九州クボタ 永野義憲様



当社は、北部九州・福岡・佐賀・長崎の3県を管轄エリアとするクボタ農機の販売ディーラーとして、エリア内に農機78店舗サービステクノセンター14店舗・建設機械4店舗・その他10あまりの関連部門を構成し活動しております。ですが「クボタ」と聞いて皆様がイメージされるのは農業機械メーカーやトラクターといったところではないでしょうか？

せっかくの機会を頂戴しましたので我々クボタグループが2030年に思い描く未来の社会的存在意義について5分ほどの動画がございますのでまずはそちらをご覧ください。

(動画)

いかがだったでしょうか？

クボタが描く2030年に向けた取り組みは始まっており自動運転ロボット機は既にトラクター・コンバイン・田植機・ドローンと数々のラインナップを取り揃え、昨年のクボタグループ内でもご当地福岡県に於いてはおかげさまでロボット機の販売台数が全国でNo.1となりました。といった実績の紹介をお伝えしたいのではなく、なぜこのような機械が必要になってきたのかを現在の農業情勢等の背景を含む資料を用いて少しお話させていただければと思います。

それでは画面をご覧ください。

皆様もご承知の通り、現在日本の抱える問題の中で、少子高齢化や労働力不足等はしばしば耳にされたことがあるかと思えます。一方、世界では異常気象等によ

る食糧難や人口増加に伴う飢餓などの問題として取り上げられ、近年では世界中でSDGsといった持続可能な活動目標が求められております。そういった中、福岡県では10年前に比べ農業経営体数をご覧のように約43,000軒から約28,000軒と実に66%まで減少しており、世界中でも40%を切る食料自給率である日本農業にとって非常に危機的状況となっております。次の画像をご覧ください。こちら先ほどと同じ10年分のデータとなります。こちらは法人化した農業経営体の推移となり、先ほどお見せした県内の農業人口と見比べて頂くとおわかりのとおり就農人口は減ってはいるものの法人化は増えているのが現状です。ほっとされているかもしれませんが、今後10年で農家戸数はさらに半減するといわれておりそれに伴って、離農農家から委託される農地や休耕地解消の問題のため、こういった農業法人が占める割合は、大きく増加しています。大規模で点在した農地の適切な管理・収量・品質の向上、コストと労働負荷の低減、生産品の高付加価値化など多様な問題を抱える農家の支援は急務と考えています。そういった中、クボタグループでは、日本農業が今後、多様な問題を解決しながら「魅力のある強いビジネス」に成長するためロボット技術やICTを活用し超省力・高品質生産を実現するスマート農業の普及を実現します。利益の高い農業経営を可能にするソリューションを開発・提供し栽培から経営管理に至るまで、多岐にわたるメリットを創出し進化して参ります。



(動画)

こちらをご覧ください。2019年11月よりブランドパートナーとして長澤 まさみさんにも世界中で多くのCMにもご協力いただいております。日本の食文化や先人たちからのバトンをつなぐため創業以来、クボタは農家に寄り添い、全国の農業現場と真摯に向き合ってきました。クボタ独自のデータと自動化を合わせたアプローチで農業の未来を変えたいと思い挑戦と進化は続きます。最後にこちらをご覧ください。

(動画)

「壁があるだから行く」

本日はお招きいただきありがとうございました。

